

令和6年度 学校評価報告書（総括書）

あま市立伊福小学校

1 総括

(1) 教育目標（学校経営案より）

知・徳・体の調和のとれた人間形成を図る。

- ア 学び合う児童 【知】
- イ 助け合う児童 【徳】
- ウ 伸び合う児童 【体】

(2) 本年度の重点努力目標

ア 確かな学力の向上

- ・主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善
- ・タブレット端末の効果的な活用
- ・振り返り活動の確保
- ・基礎基本の定着

イ 豊かな心の育成

- ・笑顔で元気のよいあいさつや返事の励行
- ・しゅっぱいタイムの充実
- ・人権教育の工夫
- ・心を合わせた合唱の充実

ウ コミュニティ・スクールの充実

- ・地域人材の積極的な活用
- ・幼稚園、保育園、こども園、小学校、中学校との連携
- ・ホームページ等を活用した取組内容の周知

エ 安全教育の充実

- ・校内環境の整備と危機管理の徹底
- ・自分や周りの人の命を大切にする取組
- ・見守り隊の充実

オ 働き方改革とコンプライアンス遵守

- ・風通しのよい温かい職場環境づくり
- ・業務内容の改善や職務の優先順位の見直し
- ・生きがいや働きがいを大切にしたタイムマネジメント力向上
- ・コンプライアンス面談や研修の推進

2 自己評価の実施体制

(1) 調査時期 令和6年12月17日～令和6年12月25日

(2) 調査項目 別紙アンケート参照

(3) 調査対象 有効回答者数505／対象者数596

- ・児童 303名／全327名
- ・学校運営協議会委員 6名／全13名
- ・保護者 198名／全249名
- ・教職員 19名／全20名 計526名

3 調査結果【資料として添付】

別紙アンケート結果参照

4 考察【児童、保護者、教職員、地域等の総括的考察】

(1) 児童の評価

- ・ 全体的に、ほとんどの項目で「よくあてはまる」「ややあてはまる」という肯定的な回答が80%を超え、良好な結果となりました。
- ・ 「校外での活動に喜んで参加している」「タブレットを使った学習が自分の役に立っている」「先生たちは一生懸命に授業に取り組んでいる」といった項目では、「よくあてはまる」という回答が多数を占め、児童がこれらの活動に満足していることが伺えます。

- ・ほとんどの児童が「学級で楽しく生活し、仲のよい友達がいる」と回答しており、良好な学級での関係が築かれていると考えられます。一方で、「授業が楽しい」という項目では、15.1%の児童から否定的な回答がみられました。

(2) 教職員の評価

- ・全体的に、肯定的な回答が多くみられました。
- ・「児童は校外での学習に喜んで参加している」「児童は歌うことが好きで楽しく合唱している」という項目では高い評価を得ており、校外での学習や歌声集会在児童の成長に大きく貢献していることがわかります。校外での学習は、学校では学ぶことのできない経験や発見があり、歌声集会は学級や学年の絆を深める上で重要な役割を果たしていると考えられます。
- ・児童と教職員の評価に大きな差がみられたのは、「交通マナーを守っている」という項目です。児童の68.8%が「よく守っている」と回答した一方で、教職員の10.5%しかそう考えていないという結果になりました。このことから、適切な交通安全指導が必要であると考えられます。

(3) 保護者の評価

- ・全体的に、肯定的な回答を多くいただきました。
- ・「宿泊行事（修学旅行、林間学校）や校外での学習に喜んで参加している」「学級で楽しく生活し、仲のよい友達がいる」という項目では、「よくあてはまる」との回答が最も多く、児童がこれらの活動や学校生活に満足していることが伺えます。
- ・「児童が読書に親しむ」「姿勢体幹体操は健康生活向上に役立つ」という項目については、改善の余地があるとのご意見もいただきました。児童や教職員の評価は高いものの、保護者の方々には、より積極的に読書や姿勢体幹体操に取り組んでいる様子をお伝えしていく必要があると考えます。

5 成果と課題

《成果》

- (1) 児童、教職員、保護者から、多くの肯定的な評価をいただきました。特に「校外学習（社会見学、林間学校、修学旅行など）」「歌を歌うこと」「学級での生活」については、高い評価を得ることができました。
- (2) 「教職員は情熱をもって教育に取り組んでいる」「ICT教育が多様な学習に役立っている」という項目においても、児童と教職員の双方から高い評価を得ることができました。
- (3) 学校行事や日常の授業、そして「しっぴータイム」といった取組を通して、教職員は児童の成長を日々実感しています。特に「しっぴータイム」は、児童同士の関係を深め、児童のコミュニケーション能力の向上につながっていると感じています。
- (4) 児童は、何か困ったことがあったり、相談したいことがあったりするとき、教職員が丁寧に対応してくれると感じています。

《課題》

- (1) 児童や保護者からの読書や姿勢体幹体操に関する評価が他の項目に比べて低い点が挙げられます。
- (2) 交通マナーについては、児童の自己評価と教職員の危機意識との間に大きな差がみられました。
- (3) 授業については、1割を超える児童が否定的な回答をしており、全ての児童に分かりやすく、楽しく学ぶことができる授業づくりのために教職員の力量向上が必要であると考えます。

6 改善策

- (1) 朝の読書時間をはじめ、児童が熱心に本を読んでいる様子や図書委員会の読書を啓発する取組を、保護者の方々にホームページなどで発信していくとともに、月に一度実施している読み聞かせボランティアの活動も合わせて紹介していきます。これらの取組を通じて、読書活動の定着をめざします。
- (2) 姿勢体幹体操では、姿勢体幹体操のよさや効果、児童が楽しみながら取り組んでいる様子を、児童や保護者の方々と共有するなど、今後も健康的な生活ができるよう創意工夫しながら取り組んでいきます。
- (3) 朝礼での校長先生の話や、児童会・委員会活動を通して、校内での挨拶が定着しつつあります。今後は、家庭や地域社会においても挨拶や感謝の言葉が自然と出るよう、児童に働きかけていきます。
- (4) 「主体的・対話的で深い学び」の実現をめざし、児童が「授業が楽しい」と笑顔で学習に取り組むことができるよう、一人一人が輝く学校の実現に向けて、より楽しく魅力的な授業づくり、授業改善に努めていきます。